

春ダイコン新品種『春宴(はるうたげ)』:RA-256 の特性と栽培のポイント

雪印種苗(株)
園芸作物研究グループ
野菜研究チームリーダー 松井誠二

1. はじめに

春どりダイコンは一般地、暖地で主産地が形成されていますが、地域の特性を生かしてトンネル栽培を中心としながら、マルチべたがけ栽培、露地栽培などが行われ、比較的市場相場も安定した時期に出荷されています。

弊社ではトンネル栽培用品種を中心に播種時期に合わせてラインアップを揃えておりますが、栽培環境に応じて栽培方法が変化する中で、慣行品種より更に品質、収量性、歩留まりが安定し、経営的にプラスになる品種の要望を受けながら、ここ数年間の試作結果が良好であった試作系統『RA-256』を『春宴(はるうたげ)』として新発売することになりましたので、ご紹介致します。

2. 『春宴』の品種特性

「極晩抽性で根の太りが良く、肌がきれいで根部障害に強く、適応作型が広い薄青首系春ダイコン」

- ①葉はやや耐寒性があり、中大葉に揃う極晩抽性で、冬播きトンネル～早春播きべたがけマルチ、秋播きトンネル、露地越冬密植栽培に幅広く適応します。
- ②根長はトンネル栽培で34～40cm、べたがけマルチ栽培で38～42cmとなり、根径7.0～7.5cm、根重1.3～2.0kgにきれいに太ります。
- ③根形は曲がり少なく、きれいな総太りとなります。青首の色は特に冬～早春播きでやや薄めとなり、肉質は緻密です入りが極遅いため、青果加工兼用での出荷が可能となります。

『ひげ根黒変症』の品種間差 (平成23年、千葉県農林総合研究センター成績より抜粋)

供試品種	場内試験①		場内試験②		場内試験③		現地試験	
	発生株率%	黒変支根数本/株	発生株率%	黒変支根数本/株	発病株率		発病株率	
					間引き時	収穫時	間引き時	収穫時
他社品種A					31	8	37	31
他社品種B	17	1			25	17		
他社品種C	94	4.5						
他社品種D			67	1.6				
春宴	0	0	8	0.1	0	6	11	9
春省武					11	6		

場内試験①:平成23年2月2日播種、トンネル栽培、5月6日調査
場内試験②:平成22年9月17日播種、露地栽培、12月10日調査
場内試験③:平成22年11月24日播種、トンネル栽培、4月5日調査
現地試験 :平成22年11月24日播種、トンネル栽培、4月7日調査



▲『ひげ根黒変症』
(内部まで黒変している)



▶『ひげ根黒変症』

- ④近年、トンネル産地を中心に問題となっている根部障害の『ひげ根黒変症』には明らかに強い特性を持っています。本症状は発生が酷くなると根の内部まで黒変が及ぶことがあり、加工等で内部を重視する用途では歩留まりに大きく影響します。
- ⑤肌は滑らかで洗いがりが非常にきれいで、箱詰め出荷が良好ですが、併せて肌のシミ症状にも強いとの試作結果が多数得られており、根部障害には比較的強い方の品種です。
- ⑥施肥、トンネル換気の考え方
施肥量、トンネル換気の方法は、適期播きにおいては、やや減肥体系に向き、早春での換気はやや早めとなります。

3. 『春宴』の適作型と栽培のポイント

【一般地・暖地 冬播きトンネル栽培】

- 施肥はN:P:K=5~7:15:10kg/10aを目安として、事前に圃場に良く混和しておいて下さい。
- マルチは3条~4条で株間は23~27cmの高畝栽培を基本として下さい。早播き等で地温を確保し難い条件では根長確保のために、初期のべたがけ被覆が有効です。
- トンネルの換気は2月の天候を見ながら徐々に行います。トンネル内が蒸し込まないように換気遅れに注意し、トンネルの除去はやや早めとして、後半に葉が繁らないようにして下さい。

- トンネルの遅播きは地温が上昇してきますので、トンネルの換気は早めに行った方が根長、根形がまとまりやすくなります。

【一般地・暖地 早春播きべたがけマルチ栽培】

- 極晩抽性で根長があり太りも良いために、短根になり難く、収穫日数もトンネル栽培に比べても大きな開きがなく、低コスト栽培が可能となります。
- 早播きは寒暖の差が特に激しい時期ですので、地温の上昇や週間予報などを参考の上、播種作業に入ってください。
- 遅播きは地温が急激に上昇する時期になるために、長根になる心配がありますので、順次『晩々G』に切り替えて下さい。
- 施肥はN:P:K=6~8:15:10kg/10aを目安として下さい。

【暖地・10月播きトンネル栽培】

- 施肥はN:P:K=10~12:15:10kg/10aを目安とします。
- マルチは3条~4条で株間は23~27cmの高畝栽培を基本として下さい。
- トンネル被覆は晩秋に向けて地温が下がる時期になりますので、遅播きになるに従い、早めにトンネルを被覆して地温を確保するようにして下さい。寒さが厳しくなるまでは裾は開放換気としますが、暖地でも寒暖差があるやや内陸の産地では、厳寒期の凍害対策として保温に努め、黒斑細菌病等の殺菌剤防除も行なって下さい。

【暖地・露地越冬密植栽培】

- 暖地露地環境においても耐寒性が晩抽性があるために根長、太りが良く、3月収穫に向きます。

- 条間40~42cm、株間18~20cm前後を目安として下さい。
- 施肥は追肥体系となりますが、ややじっくり育てた方がより揃うため、施肥量は慣行品種より若干控えめとして下さい。
- 暖地でも寒暖差がある地域では、厳寒期に心配される黒斑細菌病等の殺菌剤防除を行なって下さい。

【北海道・東北高冷地 春播きべたがけマルチ栽培】

- 『晩々G』を使ったマルチべたがけ栽培が基本となりますが、もう少し根長が欲しい栽培条件に向きます。

4. むすび

今回ご紹介しました『春宴』は品質、収量性、歩留まりが安定し、経営的にプラスになる品種として期待されます。『春宴』の特性をご理解頂き、各産地での安定生産につながることを期待しております。

品種比較試験成績-1
2012年1月26日播種(トンネルマルチ栽培(3条マルチ、株間20cm))

品種名	5/9調査					
	葉長 cm	葉重 g	根長 cm	根径 cm	抽根長 cm	根重 g
春宴	47	330	36	7.3	12	1240
寒閑	51	320	29	7.1	5	770
春太鼓	48	320	32	7	9	930
他社品種B	47	270*	35	6.9	8	1060
他社品種C	47	310	39	6.8	10	1190

*:花茎重合む

品種比較試験成績-2
2011年10月6日播種(トンネルマルチ栽培)

品種名	2/13調査				
	葉重 g	根長 cm	根径 cm	抽根長 cm	根重 g
春宴	250	38	7.8	15	1600
他社品種E	210	44	7.8	16	1750
他社品種A	170	46	8.3	16	1840
喜太一	220	37	8.5	13	1890
春省武	180	40	7.3	13	1330
春風太	110	43	7.3	15	1380

▶ 『春宴』のトンネル栽培



▲ 『春宴』のトンネル栽培での収穫物

▼ 『春宴』の作型表

地域	作型	播種期 (●) / 収穫期 (■)												
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
東北高冷地	べたがけマルチ					●	■							
一般地暖地	トンネルべたがけマルチ トンネルマルチ	●	●	●	●	●	■							
	べたがけマルチ			●	●	●	■							
暖地	トンネルマルチ												●	●
	露地密植												●	●



▲ 『春宴』の暖地・露地越冬密植栽培